

# 山梨縣に於ける道路愛護運動に就て (二)

尾崎 義 一

## 道路愛護に就て

することが出来ますれば國民精神總動員運動の主旨にも沿ふことが出来やうと存じます。

來る十一日即ち明後日には、縣下一圓に亙りまして道路愛護デーが開催されます。當日は道路愛護會の會員諸君は素より、一般市町村にお住ひの方々及び中等學校小學校の生徒兒童諸君の御協力を得まして道路、橋梁、側溝、街路樹、道路標識、里程標等の修理清掃、それから路面の補修、路肩の雜草刈、その外交通上の障害となる物の除去等の作業を實施することになりました。即ち此運動によりまして直接には一般交通上産業經濟上その足らざる處を幾分でも補ふことが出来、間接には集團勤勞運動を通して郷黨の團結、隣保扶助、公物愛護の精神を自らに拾得涵養

することゝ出来れば國民精神總動員運動の主旨にも沿ふことが出来やうと存じます。扱て道路が吾々の日常生活と密接不離の關係にあることは申す迄もありません。又「道路の良否が如何に吾々の生活に甚大な影響があるか」といふことも皆様既に體驗済みあります。然しそれにも不拘吾々は兎角道路に關しては關心が無さ過ぎるのではないかといふ感が致します。鉤の手に曲つた路は斜に近道をし、一寸した泥濘も避けて通る吾々ではあります、それでゐて如何して斯くも道路に關心が少いのでありませうか。

是は私思ひますに「これはた道路は道路工夫が修理するものだ」といふ觀念と「道路は自分達の所有でないんだ」

といふ觀念があるからではないかと思はれます。成程一應はその通りでありますが而し道路が悪い爲に直接の苦痛を受けるのは吾々お互であつて見ますれば、奇麗な立派な廣い道路は誰しも望む處でありますから關心が無い理ではなし。が「自分一人ではどうにもなるものでない」といふ考と「誰かゞやつて呉れるだらう」といふ氣持が云はば「御役所委せ」といふことが結局の處「無關心」又は「不熱心」といふ汚名を蒙ることになるのではないでせうか。

歐米の文明諸國では道路といふものは銘々の住家の廊下の延長の様に考へてゐるそうです。全く外人の生活様式を見ますと成程と合點が行きますが、外人は往來を歩いた靴の儘で自分の部屋に入ります。即ち道路は自分の家の廊下にも相當する理でありますが、日本人はどうかと云ふと往來は汚れたもの穢いもの雨が降ればぬかるものと思つて居ります。そこで雨の日、雪の日、曇の日、晴の日と變様に履物の使分けをして平氣でゐます。つまり道路の状態に應じて履物を適合させる方向に進んでゐるが履物を一つの

様式にして道路の方を制御するといふ方向には進んで居りません。是が亦日本の道路が外國のに比較してそもそも後れた一つの大きな原因だと思ひます。その外に色々の事情もありませんが兎に角我國では最近迄「人肩や馬背による運輸交通で事足れり」として來たのであります。明治の初めに汽車、電車が出來まして「旅行も物資輸送も鐵道に限る」といふ理で道路の改良などはあまり顧みられなかつたのであります。

大正八年に漸く道路法が制定されました様な次第ですが最近も國も府縣も又市町村も夫々の持前に應じて立派な道路を作るべく改良と維持とに懸命の努力を致して居るのであります。如何せん日も淺く又道路ばかりに多額の費用を掛けることは到底望まれない現状であります。

勿論昔に比較しますと大變道路も良くなりましたが、而し未だ未だ充分といふ處迄には至つて居りません。従つて今後とも努力を致さねばなりません。皆様の御協力を仰ぐのでなければ到底管理者の手丈ではやつて行けません。

ん。

最近獨逸の勤勞隊では重要な國防道路を何本も自らの手で造り擧げたといふことであります。皆様も今後道路の維持修繕ばかりでなく建設改良の方向にも管理者と提携して進んで行かれるやう希望致します。斯くなれば「道路愛護」なんといふ言葉も必要が無くなるのではないかと思ひます。

茲で一才我國の昔の道路の状態を窺つて見度いと思ひます。道路は何時頃から出來たか分りませんが、凡らく人間が此世に出來た當時から有つたと考へられますが道路に關する法制が歴史上に記録されたのは今から千三百年前であります。當時は無論徒歩又は騎馬による交通で車などはなかつたのであります。京都を中心とする今で申せば國道に相當する路制が定められ「驛馬」傳馬」などいふ法が設けられました。

是は孝徳天皇の御代のことですがその後數代の天皇様によつて道路の法制が改正整備されました。これが今

日の路制の根幹をなしてゐるといふことです。當時道路の開鑿には僧侶(坊さん)が衆生濟度の爲と稱し今日の所謂勤勞奉仕を盛んにやつたのでありまして、それが平安朝の頃迄も續いて居ります。當時の道路は何といつても險惡で行路は難澁でありました。宿屋などはありませんから、旅行者は何れも糧食は無論のこと炊事道具夜具迄も持つて歩きました。人家があれば幸一夜の宿を乞ひますが、さもなければ貴賤を問はず文字通り草を枕に野宿をしたものであります。従つて糧食盡きて路傍に餓死した者も少くなかつたのです。元正天皇の頃には此不便を除き旅行を快適にせんが爲に豪家に命じて米を路傍で賣らしめ高に應じて報告させたといふことであります。又道路施設として面白いことは元平年間に勅によつて「畿内七道諸國の驛路の兩側に果樹を植へさせられた」即ち果物の並木道を髓えられたのであります。が惜しい哉後世には廢絶致しました。此果物の並木道はその後もしばしば實行せられました。が、どうもうまく行かなかつたやうです。

平安朝時代になりますと、特に「作路司」と稱する道路に關する職員を置いて政府が道路の改良に意を注いだ結果全國に道路が普及致しました。處がその後武家が專横を極めた戰國の代となつて折角の道路も法制も駄目になりまして荒廢する儘に委せられました。

賴朝が覇府を開いた頃鎌倉を中心とする「驛路の法」が定められました。これが爲に東海道筋は稍面目を改めましたが而し他は舊態依然といつたものでありました。

織田、豊臣の時代となりました。道路の修築、並木の植栽に力を注ぎ、徳川の時代となつて更に交通制度に一段の努力を致しました結果漸く今日の道路の基礎が出来ました。

江戸の日本橋を里程の起點即振出と定め、諸國の街道には榎、松などを植えて一里塚となし又道路の兩側には松、杉等の並木を植えました。今日残つて居ります街道筋の並木は多く此時代のものであります。中にも東海道五十三次の松並木などは廣重の畫にも描かれ、又日光街道の杉並木の如きは三百年四百年の命脈を保つて今尙翠は滴らむばかり

であります。善政は後の世迄、多くの人々を喜ばして居ります。是等の並木は何れも苗木から育て上げたものであります。その保護獎勵については一通りの苦心ではなかつた事が文書から窺はれます。

加藤清正公は武田信玄公と同様、武將として有名なばかりでなく亦土木事業、土木行政の方面に於ても有名であります。豊後街道築造の時には杉並木を作り、其制札には「一枝折らば一指を斬るべし一株を伐らば一首を誅るべし」と書き記し、拔身の鎗を携へた家臣が監視をしたと傳へられて居ります。並木にも是程意を用ひたのであります。

路面の維持修繕については「路面固め」といふ言葉が古くからあるやうに、牛馬が荒した孔埋や又石拔等をやつたやうです。勿論道路といつても今日のやうに多種多様なものではなく多く砂利道であり、交通機關といつても精々牛車位でありますから修理といつても幼稚なものであつたと思はれます。「御成街道」といつたやうな特別なものはいざ知らず一般の道路はあまり平坦なものではなかつたやうで

す。

ある昔の物語の中に路面の凹凸の甚しかつた事が窺はれる面白い記事があります。即ち源の頼光の郎黨三人が賀茂の祭使の行列を見物せんものと或僧の車を借りたんですが、途中で公卿にでも行遭つて引下されては事面倒と、下簾を懸けて女車の様に見せかけ、忍んで出て行きましたが車の振動甚しく或は立板に額を打つてたり御互に頭を打合せたり仰げさまに倒れるやら打伏せて轉ぶやらして三人ともめまひがして來ました。末には酔ばらつて踏板に物を嘔き散らし、烏帽子も取落して散々の態を演じました。とう／＼「自分共は千萬人の中へ騎に乗つて駈け入ることは何でもないが此車には閉口したと咳きながら降りて歸つた」といふことが書いてあります。當時の牛車には振落されない爲の「梓立」と稱するものが取付けられてありますが是から推しても大體道路の狀態が如何に悪かつたか分ります。話は昔のことに深入しましたが牛馬車の時代は或は路面が少々悪くとも我慢が出來たかも知れません。然し現代

はそうは行かなくなりました。人間が贅澤になつたせいも無論あるにはあるが、それよりもつと道路を立派にしなければならぬ重要な理由が生れて來ました。それは自動車の出現であります。近年自動車は文字通り日進月歩の發達を遂げ鐵道軌道に劣らぬ運輸能力と無軌道文けに道あらば何處へでも自由に手輕に行けるといふ特徴の爲に一躍時代の寵兒となり生産運輸の方面に一大革命を齎らしました。従ひまして近代の道路工學は實に自動車を對象として來たといつても過言ではないのであります。今後とも研究の目指す方向は「運送費と道路費との間の經濟的均衡の發見」であります。他の言葉で申しますれば「幾許の改築費、維持費を道路に掛けて可なりや」といふ問題であります。然し此道路問題は自動車工學の發達と同時併行的の關係にありますのと、一面地方事情の制限を受けますので實際には仲々解決に骨が折れるのであります。然しながら兎も角交通の安全と道路の經濟的使用の爲に速に道路工學の完成が要求せられますので技術者はあらゆる角度から調査研究を

續けて居ります。

即ち道路の幅員、勾配、曲線の形の研究それから道路修築材料舗装材料の化學的力學的の研究、更に保健衛生上の見地から震動、騒音、塵埃の人體に及ぼす影響等の研究であります。道路構造、材料の種別は何れもガソリンの消費量、輪帶の磨耗、車體の壽命、走行速度及載荷量の多寡等と密接な關係を有するのであります。

技術上の細い話は省略しまして舗装だけについて今日迄の研究の結果を申し上げます、一番理想的な快適な舗装はアスファルト系のものとなつて居ります。アスファルトの道と一口に申しましても色々の種類と工法がありますから今は唯概括しての話であります。次がセメント系混凝土道であります。是にも澤山の種類があります。尙舗装としてはその他に木や石や練瓦などを材料とした幾種類かゞあります。

我山梨縣に於ては自動車交通が活發になりかけたのは昭和七年に八號國道の改修が完成して以來のこと、茲數年

の間に重要縣道は何れも改修せられました。尙今後も改修されんとして居ります。現在自動車を通り得る道路は國道が一三〇杆、府縣道が四〇〇杆で、道路全體の約五割見當になります。今日迄道路の改良に費した金は約九百萬圓に昇ります。郡村道の方も昭和七年から九年に掛けての農村振興時局匡救事業で大いに面目を改め自動車の入り得る道路が非常に多くなりました。無論未だ充分でない道路、今一息で立派になる道路も澤山あります。兎に角今日は思ひ設けぬ山奥や僻地でトラックの姿を見て驚くことがあります。舗装道路の方は殘急ながら我山梨縣は未だ未だ行渡つて居りません。國道の延長は一三〇杆ばかりですが、その中一三杆即十分の一が舗装道路であります。府縣道は約八九〇杆ありますがその中舗装道路は八杆即ち百分の一にも足りません。町村道は舗装されたものは殆んどありません。甲府市の舗装道路は約一三〇杆の中の六杆即二十分の一であります。

山梨縣は九分九厘迄が砂利道であります。この砂利道と

自動車交通といふものは例へば水と油のやうな關係で永く添ひ遂げることが出来ません。今後自動車交通の爲には道路は舗装されなければなりません。無論自動車の量によります。

砂利道必しも悪いといふものではありません。立派に維持修繕の出来たものは結構であります。唯自動車の交通量の多い處では立派に路面を保つて行くといふ事が技術上は無論のこと經費の上からも仲々容易なことではないのであります。

どんどん金を掛けて道路を改良もし修理もやれば生産擴充の上には良いに相違ありませんが、無制限に道路ばかりに多額の費用を掛ける理には参りません。特に昨今のやうに非常時局となりましてからは、道路改良の必要性は充分に認められながら、寧ろ結果は逆に道路などにはあまり金が掛けられなくなりました。御参考迄に最近十ヶ年の道路修繕費を見ますと、昭和四年には十一萬八千三百圓ありましたものが同五年には八萬四千六百圓になり八、九年頃は

七萬七千三百圓に減じました。年々道路は改修せられ最近も大月勝沼線、下部本栖線など改修されました。自動車を通さねばならぬ道路の延長が増したに不拘、修繕費は逆に七萬四千圓に減つて居ります。今是を一里當りの修繕費に換算して見ますと昭和四年頃は五九一圓でありましたのが此頃は二八九圓となつて居ります。約半分にも足りないのです。是を一里當りに直して見ますと拾參錢餘となります。今山梨縣では僅か七十三人の道路工夫が全線の修繕に當つてゐます。分擔道路の長いのは一人で約五里、短いので約半里、平均二里半を受持つて毎日朝早くから日暮る迄働いて居ります。是等の工夫は山梨縣の「マーク」の入つた紅白の旗を作業現場に掲げて道行く人にも一見それと分るやうになつて居ります。尙今月からは正四寸の白い三角柱に受持區域と分擔工夫の姓名を墨で記入した標識を路傍に樹てまして責任を判然せしめると同時に一般各位の關心を喚起し、勤勞に對する感謝と斯道奨勵の一助に致し度いと考へて居ります。

縣は從來から道路保全に就きましては色々努力をして來たのでありますが、前にも申上りましたやうに經費に限りがありますので完璧を期するは容易なことではないのであります。そこで皆様の御協力を仰ぐ爲に昭和七年に道路愛護獎勵規程といふものが出來まして今日迄七七年を經過致しました。

その當時の告諭の中には次のやうな事が出て居ります。

即ち「道路ノ改善並維持ニ就テハ財政ノ許ス範圍ニ於テ銳意力ヲ竭シツ、アリト雖モ限リアル人員ト經費トヲ以テ其完璧ヲ期スルハ蓋シ至難ノ業タリ、是ヲ以テ地元市町村住民ノ道路ニ對スル熱烈ナル愛護ノ精神ニ基ク協力ト後援トニ期待スルヤ洵ニ切ナルモノアリ。願フニ縣民トシテ此ノ日進ノ社會ニ處シ各自ノ實生活ニ最モ價値多キ關係道路ヲ一層尊重愛護シ官民協力舉縣一致ノ力維持保全ニ努メ道路ノ機能完全ヲ發揮セシムルハ克ク時勢ノ進運ニ即シ地方福利ノ増進ニ努ムル所以ニシテ亦實ニ自治公民ノ責務ト謂ハサルベカラス、然ルニ往時地元住民ガ其ノ關係道路ヲ愛護

シ自發的ニ寄與協力シタル社會奉仕ノ美風ハ近時道路ニ關スル法制ノ完備ト共ニ漸ク頽廢セムトシテ一ニ道路管理者ノ爲ス處ニ倚賴シ願ミサルノ傾向アルハ甚ニ遺憾トスル處ナリ、依ツテ當局之ヲ憂ヒ其対策ノ一端トシテ今回此ノ趣旨ニ基キ別ニ告示ヲ以テ道路愛護會規程ヲ制定シ其ノ實績ヲ揚ケムト欲ス、故ニ此ノ際市町村及地元各種團體ニ於テ進ンデ本會ノ趣旨ニ賛同シ道路愛護ノ事ニ當リ更ニ一層有效ナル施設ヲ爲スニ於テハ其ノ效果ノ顯著ナルコト期シテ俟ツヘキモノアルト共ニ團體員ノ修養社會奉仕ノ實踐トシテ極メテ好平ノ措置タルヲ信ス」と述べられて居ります。

各位が此趣旨に進んで御賛同御協力下された結果創立當時は十團體に過ぎなかつたものが僅か七年の間に七十七團體に増加し其人員も一萬七千六百餘人に達して居ります。その受持道路の延長も四百二十五杆に相成つて居ります。

今愛護團體數を郡別に分けて多いものより順次申上ぐれば、北巨摩郡二七團體、西八代郡一三團體、東八代郡八團體、南巨摩郡七團體、中巨摩郡及南都留郡各六團體、北都



留郡五團體、東山梨郡四團體、西山梨郡一團體といふ順であります。

先月の十一日恩賜林御下賜の記念日には道路愛護優良團體に對し表彰式が行はれたのでありますが審査の結果、南都留郡の道志村の愛護會が最高賞を得られましたことは皆様既に御承知であります。今道志村の作業の内容を此處で御披露致しますれば道路の改修延長八百二十米、外に橋梁の修繕路側石積作業が有りましたして約四千圓ばかりの内容になつて居ります。

來る十一日の道路愛護デーには作業に就きましては本縣土木出張所員が出勤しまして御指導申上げることになつてゐますが此機會に道路の維持其他に就き氣付きました二三のことを御願致し度いと思ひます。先ず舗裝道路につきましては市内の何れも清掃が行届いてゐるやうですがあまり水を御撒きにならぬやうに願います、殊に下水悪水は衛生上からも良くありません、若し塵埃の爲め汚れて居るやうでしたら撒水の程度でなく一時に多量の水で洗滌して頂くや

うにして何時迄もじめじめ濕つた状態に置く事は感心致しません、修繕したばかりの處は水は禁物であります。

砂利道の路面には何時も適度の撒水が望ましいのです。砂利道は車の轍や窪地が出来易いのですが無暗に雜草や木根、莖などで填充しないやうに附近の砂利を掻き集めて補修して頂き度い、路面の水溜りは道路には禁物ですから水排を常に良くするやう側溝の浚渫などを完全に願ひ度い、側溝の水排が悪い爲に溜つた水が路面を洗ひ流したり深く滲透した水が道路石垣の崩壞の原因をなすことが多いのでありますから特に側溝の通水に御留意願ひます。それから道路の幅員内に石材木材その他物品を積出したり車や道具などを放り出して置くことはそれ丈道路を狭くして效用を傷けることになるので御留意願ひます、傷んだ道路を修理することは素より必要ですが道路を愛護して傷めないやう又充分の効果を擧げるやうにすることが更に必要であります。煙草の吹殻一本棄てることも氣を付けるといふ程に早く道路の愛護に徹底したいものと思ひます。

道路愛護運動は獨り山梨縣だけの運動ではありません。矢張り各地とも事情を同しうして居りますので全國的の運動で御座居まして何れも相當の實績を擧げて居ります。其内容は省略致しますが、今各府縣で募集した道路愛護の宣傳標語の若干を御紹介して私の講演を終ります。

神奈川縣では「愛護せば廣きに優る狭き道」是が一等當選の標語であります。

千葉縣では「こはすな汚すな物置くな」それから「通り良い道不斷の手入」

秋田縣では「守れよ清めよ愛せよ道路」それから「明るく道路郷土の誇り」「感謝で歩け奉仕で護れ」

宮城縣では「今日の一善道路の手入れ」「我等が道路我等でなほせ」

山形縣では「國の榮へも道次第」「道路愛護も忠義の一つ」「進む文化は道路から」

愛知縣では「愛の撒水奉仕の籌」「御奉公道路愛護もそ

兵庫縣には「愛する道路に危険なし」「道愛せよ郷土の道を村が榮えりや國が富む」

大阪府では「良い道路裏に愛護の力あり」

鳥取縣では「人は健全、道路は保全」「今日も道路に感謝の愛護」

島根縣では「郷の人情道路が語る」「心一つで道路も光る」

宮崎縣では「手近い道路に手厚い愛護」「道の愛護は文化の手引」などいふのがあります。何れも大同小異のやうですから此の程度で略します。

そこで我山梨縣では「學校道は僕等で守れ」といふ標語を生徒兒童諸君に御送り致しました。

光輝ある我日本を此非常時局下に擔ふ青年生徒諸君の責任は一層重大であります。我國を守護する爲には先づ郷土を愛護しなければなりません。躍進日本は我家と學校とを運ぐ道路を愛護する處から出發しなければなりません。特に學校生徒諸君の御奮闘を期待致して講演を終ります。